様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2010～2013
課題番号：２２３２００６５

研究課題名（和文）ヒューマン・プロジェクト：人間学の文化史的視点からの再構築

研究課題名（英文）Human Project: Reconstruction of the Anthropology from the Viewpoint of Cultural History

研究代表者
大宮　勘一郎（OMIYA, KANICHIRO）

東京大学・人文社会系研究科・教授

研究者番号：４０２３３２６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　10,400,000円、（間接経費）　3,120,000円

研究成果の概要（和文）：現代の科学技術の進歩と発展に鑑みて、「人間」を再定義する必要は日増しに高まっているが、技術と人間との関係を近代思想として最も深く考え続けたのはドイツ思想であると言ってよい。本研究プロジェクトは、そのようなドイツの思想史に様々な角度から切り込んでゆくことにより、従来の人間観のどこが妥当性を失い、どの部分が維持・救出可能であるかを明らかにする作業に貢献をなし得たと考える。３回の国際シンポジウム、３回の国際ワークショップを行うことで、他文化圏の研究者らとの意見交換も活発に行い、議論を深めることができたのみならず、本プロジェクトの問題設定が国際的な広がりを持つものであることが確認できた。

研究成果の概要（英文）：The reconsideration of the concept of "the human" or the "humanity" is required more and more along with the development of modern technologies and innovations. Modern German thought has been always thematized the relationship between the technique ant the human being. Our project has grappled with the questions, what part of the conventional anthropological understandings became ineffective nowadays and what part could be extricated. We have hosted 3 international symposiums and 3 workshops with scholars from various cultural and intellectual backgrounds and could make some contribution to intensify the understanding of the issue through discussions. We have been able to be aware that our theme is now interested widely in the world.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：ヨーロッパ文学

キーワード：独文学　思想史　人間学

１．研究開始当初の背景
人間学に対する新たな関心は、デジタル・メディア技術の発展、脳科学および遺伝子工学の急速な進歩などに条件づけられ、哲学的人間学のみならず、心理学や社会学、さらには美学・文学芸術に至るまでの人文諸科学をも巻き込みつつ、２１世紀の大きな知的課題の一つを形成している。こうした課題に対して、近代のドイツ文学・ドイツ思想は常に意識的であった。人間的なものの本質と条件を新たに模索することが、１８世紀後半以降のドイツ文学・思想の動因であったからである。ドイツ文芸史・思想史を、このように「人間」言説の生成と変化が表現される舞台として考察してゆくことは、今日「人間」に対して生じている新たな関心の背景を知ることになる。こうした問題意識から本プロジェクトを立ち上げた。

２．研究の目的
ドイツ文芸史・ドイツ思想史において「人間」の言説がたどってきた変遷を顧みつつ、今日再検討に付されている「人間」の定義が、過去様々な時代と社会の中でも、必ずしも安定的なものではなく、むしろ人々はその都度の社会的構成にとって妥当なものを選択してきたのであることを示し、そのような人間観の変化がどのような動機・要因に基づくものであったのかを探求する。そして、今日において従来の「人間」の妥当性に揺らぎが生じているとすれば、その背景をどこに求めるべきかを解明し、さらに、新たに妥当的な「人間」モデルがどのようなものでありうるか、という課題に踏み込んで考察する。こうした一連の問題設定は、同時にドイツ文学とドイツ思想史が根本的課題としてきたものであり、それゆえこの分野には、実作から研究資料に至るまで様々な蓄積がある。この分野を主な考察対象とするのは、単なるケース・スタディとして以上に、本研究にとって本質的な思想上・表現上の手掛かりを与えてくれるがゆえのことである。

３．研究の方法
本プロジェクトにおいては、研究の歴史的側面と同時代的側面という、二つの重点を設定し、この両方向から「人間」という問題にアプローチする方法を採った。
（１）研究の歴史的側面として、古代から中世を経て現代に至る人間観の変遷を、人間学を主題とした主要なテクストに従って描き出すことを課題とした。近代以前の様々な思想は、１８世紀以降、一旦ドイツの思想的文脈へと流れ込み、そこにおいて再解釈を施されたという経緯がある。近代のドイツ文芸・ドイツ思想においては、近代以前の知的伝承の受容と批判的再検討とが繰り返し交互に営まれつつ、固有の思想的構築が企てられてきた。こうした事情を自覚しつつ、歴史的側面においては、ドイツの知的文脈における近代以前的なものの残存に注意を払いながら考察を進めてきた。
（２）また、プロジェクトの中でも近現代を考察の中心に据えた同時代的側面においては、人間観の固定化と動揺という二つの側面から、近代的人間観を様々なテクスト事例ごとに検討してきた。こちらにおいては、思想・文芸などの書字テクストのみならず、造形芸術、舞台芸術、写真・映画などの近代的メディア、さらには現代のデジタル・メディアに至るまで様々な表象文化を考察の対象とした。
（３）共同研究としての活性化のために、可能な限り国際シンポジウムやワークショップを開催し、内外の研究者相互の意見交換の機会とした。

４．研究成果
（１）２０１０年度においては、各自の研究分担を確認の上、個別の問題関心から研究論文の執筆を行った。また、プロジェクト全体の問題設定共有のため、第一回めの国際シンポジウム「疑問に付されるべき人間 Die Frag-Würdigkeit des Menschen」（慶應義塾大学三田キャンパス）を１１月に開催した。このシンポジウムにおいては、ドイツから２名の研究者を招き、「人間」概念がいつの時代においても常に問題含みなものであったことを、それぞれの専門領域の議論に基づきながら実証してゆくことを課題とした。また、文化圏ごとの差異も大きなテーマとなった。本シンポジウムに継続するかたちで、国際ワークショップ「中世における人間観」をも開催し、若手研究者に対する国際的議論への参加と研究発表の機会とした。
（２）２０１１年度は、震災と原発災害のために、２度の国際シンポジウムを開催するという当初の計画を大幅に変えて、ようやく１１月後半に規模縮小の上、アメリカ合衆国から１名、ドイツから３名の研究者を招き、国際シンポジウム「二重存在としての人間 Das Doppelwesen Mensch」を開催した。「人間」言説が、常に相反する両極を振動しつつ両者を包摂するものであったことに着目し、様々な事例をもとに研究発表と議論を行った。また、本シンポジウムに引き続き、再び国際ワークショップを開催した。
（３）２０１２年度においては、人間学の１９世紀以降における新たな展開を主な考察・議論のテーマとし、その関連において１１月に国際シンポジウム「ポスト・ダーウィニズム　人間の行方（Der Post-Darwinismus oder: quo vadis humanitas?）」（慶應義塾大学三田キャンパス）を開催した。ドイツ、オーストリアから各１名の研究者を招き、進化論、およびその通俗化と大規模技術および情報工学の発展に晒されて変容を強いられる人間理解の諸相を、論者ごとの専門分野（思想史、文学、映像文化、舞台芸術、美術史な

ど）から概観し、共通の問題点をめぐって議論を交わした。このシンポジウムの成果はドイツ語による報告論文集の形で出版を計画している。また、これに先立ち１０月に日本独文学会秋季研究発表会（中央大学多摩校舎）において、シンポジウム「再生‐進歩‐生存：ドイツ思想史における「超人間化」Reform, Fortschritt, Überleben: “Überhumanisierung” in der deutschen Ideengeschichte」を行い、研究代表者大宮と共同研究者香田が発表を行った。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　20　件）

① 大宮 勘一郎、人間の言語から物の言語へ、藝文研究、査読有、105-2、2013、240-253
② 大宮 勘一郎、プルーストからベンヤミンへ ― そしてその先 ― 、思想、査読無、1075、2013、140-154
③ 川島 建太郎、もう一つの変身 ― カフカの『あるアカデミーへの報告』について、査読無、30、2013、170-198
④ Kuwahara, Satoshi 、Die Idee der Kunstkammer als ein Modell für die Enzykopädistik des Novalis、Study of the 19th Century Scholarship、査読無、7、2013、17-31
⑤ 香田 芳樹、真理を語る真理 ― マイスター・エックハルトの神秘的聖書解釈 ― 、イスラーム哲学とキリスト教中世、査読無、1、2012、305-330
⑥ Koda, Yoshiki、Koeln – Toulouse – Avignon. Die Verurteilung Meister Eckharts im Kontext der thomischen Tradition、Mystik, Recht und Freiheit. Religiöse Erfahrung und kirchliche Institution im Spätmittelalter、査読無、1、2012、96-122
⑦ 安川晴基、カール・クラウスの翻訳論：シェイクスピア『ソネット集』翻案を例に、思想、査読無、1058、2012、280-304

〔学会発表〕（計　１５　件）

① 大宮 勘一郎、創設としての翻訳、世界文学シンポジウム、2013 年３月 4 日、東京大学本郷キャンパス、東京
② OMIYA, Kanichiro 、Zur Arbeit mobilisiert oder zum Spiel innerviert、Symposium „Post-Darwinism“、2012 年 11 月 17 日、慶應義塾大学三田キャンパス、東京
③ Fürnkäs, Josef、Jenseits vo Magie ung Geschichte? Über einige anthropologische Motive bei Walter Benjamin 、Symposium „Post-Darwinism“、2012 年 11 月 17 日、慶應義塾大学三田キャンパス、東京
④ Nawata, Yuji 、Weltliteratur im postdarwinistischen Zeitalter: August Strindberg und Yamamoto Yuzo 、Symposium „Post-Darwinism“、2012 年 11 月 17 日、慶應義塾大学三田キャンパス、東京
⑤ 川島 建太郎、墓碑としての現代詩 ― AUFNAHME MAI 1914、日本独文学会 2012 年秋季研究発表会、2012 年 10 月 13 日、中央大学多摩キャンパス、東京

〔図書〕（計　０　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
大宮 勘一郎（OMIYA, Kanichiro）
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：４０２３３２６７

(2)研究分担者
香田 芳樹（KODA, Yoshiki）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：２０２８６９１７

和泉 雅人（IZUMI, Masato）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：４０１４９８０１

フュルンケース・ヨーゼフ（FÜRNKÄS, Josef）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：４０３０６８５８

粂川 麻里生（KUMEKAWA, Mario）
慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号：００３１７５０４

斉藤 太郎（SAITO, Taro）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：００１９５９９２

中山 豊（NAKAYAMA, Yutaka）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：２０１１９５２２

平田 栄一朗（HIRATA, Eiichiro）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：００２８６６００

縄田 雄二（NAWATA, Yuji）
中央大学・文学部・教授
研究者番号：２０２５１３８２

川島 建太郎（KAWASHIMA, Kentaro）
慶應義塾大学・文学部・准教授
研究者番号：９０５４９１６４

大塚 直（OTSUKA, Sunao）
愛知県立芸術大学・教養学部等・音楽学部・准教授
研究者番号：７０５７２１３９

臼井 隆一郎（USUI, Ryuichiro）
帝京大学・総合教育センター・教授
研究者番号：９００９２６６８

桑原 聡（KUWAHARA, Satoshi）
新潟大学・人文学部・教授
研究者番号：１０１６８３４６

安川 晴基（YASUKAWA, Haruki）
慶應義塾大学・理工学部・専任講師
研究者番号：６０５８１１３９

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：